

グループ活動紹介

浜松品質工学研究会 の活動

浜松工業技術支援センター
針幸 達也

Group
Activities

浜松品質工学研究会が設立されて今年で20年になる。ものづくりの街である浜松地区で品質工学により高いレベルでのものづくりを行いたいと情熱をもつ有志が集まり、「品質工学を通じて会員が互いに協力支援することにより業界の発展に寄与する」ことを目的とし浜松品質工学研究会は結成された。品質工学の基礎、応用の疑問点や課題等を議論し習得することを主な活動とし、1997年3月に浜松品質工学研究会はスタートした。

設立時、会員募集したところ静岡県西部地区企業を中心に大勢の参加者があり、そのほとんどが品質工学未経験者であったことから、最初の2年は品質工学を勉強することが主な活動であった。初年度は「品質工学講習会」入門コースのほかに、グループに分かれての「ダーツの的当て機」をテーマにいろいろなシステムを考案し「パラメータ設計」の演習なども行われた。

20年を通して活動の主な内容は、初心者のため年1回行われる「パラメータ設計入門講座」と「MTシステム入門講座」、毎月行われる事例検討会、年度末には会員だけでなく静岡県西部地区の皆さんに広く品質工学を知っていただくため、外部から講師に来ていただき品質工学に関する講演会を開催している。講演会では外部講師の講演だけでなく、会員が1年間の活動の中で検討を行った事例の報告も行ってきた。この講演会の後、来年度の会員募集を行う。講演会の盛況もあり毎年30名以上の会員が入会している。

ここ数年の活動を詳細に紹介する。会員数は平成25年49人、26年39人、27年45人、28年38人、現在30人である。この5年間でのべ201人も会

員が研究会活動に参加した。多少の増減はあるものの30人以上を維持している。しかし実際に定例会に参加する人数は毎月およそ14～15人である。

年11回開催される定例会は研究会活動の中心で、毎月1回浜松工業技術支援センターにおいて平日午後の時間を使い行われている。定例会で検討された事例（実験計画の相談、疑問、質問など）、および紹介された技法・事例は平成25年28件、26年28件、27年37件、28年32件、29年6月定例会までに9件が報告されている。毎月3件程度の事例が発表されていることとなる。1件の事例検討にはおよそ1時間かけじっくりとディスカッションが行われる。まずは目的を明確にする。そして最も時間をかけるのが基本機能の定義である。基本機能を正しく定義することは対象システムの深い理解につながるため多くの時間を割いている。そしてノイズの洗い出し。ノイズの洗い出しにも多くの時間を割く。正しく基本機能を定義し、適切なノイズを選択できれば実験は成功すると考えている。制御因子に関しては担当するエンジニアが最も詳しく知るところで、それぞれが持つノウハウなので、多くの時間をとり議論をすることは少ないが、対象システムを理解するために重要である。

定例会では毎月さまざまな種類の事例が検討されている。昨年度（平成28年度）検討した課題を見ると全31件の内、相談が13件、技術・技法の紹介が9件、事例の結果報告が9件であった。当研究会で毎月行われている事例検討会の大きな特徴として「終わってしまった事例の報告」が少なく、「これから始まる事例」「今、行っている途中の事例」の相談、進捗報告が多いことがあげられる。これは